



2007年3月入職

しみずようへい
清水 洋平

個性とプロ意識をバランスよく保つ

常に自分の心をオープンに

「おう坊主、今日もいるのか」。患者さまからそう声を掛けていただいているように、私は患者さまとの距離感を意識したコミュニケーションを大切にしています。患者さまとは1日おきにお会いしているので、家族よりも多くの時間を過ごしていると言っても過言ではありません。逆に捉えると、相手にとっても私が一番身近な存在。ですからアンテナを張りながら、小さな変化であっても目を留めるように心がけています。たとえばずっと8時半に来院していた方が9時にいらしたときは「今日は何かあったのですか」と話しかけながら体調を伺っています。中にはあまり喋ってくれない方もいらっしゃいますが、自分の心をオープンにしていれば徐々に打ち解けてくれるもの。それがコミュニケーションの面白さだと思います。

持ち味に悩んだ時期もあった



エキスパート CE の研修の一環で、患者さま対応のロールプレイングがありました。上司が患者さま役となり、私はいつも通りに接したのですが、そこで指摘されたのが「少し馴れ馴れしい」ということ。まずは礼儀正しく接して少しずつ距離感を詰めていってはどうか、というアドバイスをいただいたのです。私としてはフランクさが持ち味だと思っていたので戸惑いました。なかなか気持ちに整理がつかず、周りのスタッフから

も「以前よりも患者さまと話す頻度が減ったね」と言われたくらいです。

そこからいろいろと考えた末に行き着いた結論は、プロとしての自覚をもっと持つべきだということ。これまでは持ち味を全開にしていたのですが、TPOにあわせた礼節や、CEとして話すべきところできちんとお話しすることも必要です。副主任という役職に昇格し、司令塔としてクリニックをまとめていく立場。ですから、真剣に仕事に取り組む部分も増やしていこうと思っています。とは言え、明るさが自分の長所だということに変わりはありません。笑顔6割、真剣な表情4割という感じでしょうか。



患者さまに安心して遠航を受けて頂く
それが私の使命です。

清水 洋平